

インターバンクの声（2016 年 7 月 14 日）

昨夜の海外市場では、ドル/円やユーロ/ドルが荒っぽい値動きとなったが、ニューヨーク市場終盤にはロンドン市場朝方の水準近くまで戻して取引を終えている。昨夜、一番目立った変動を見せたのがポンド/ドルだった。先週はさすがに穏やかな取引になった日もあるが、とにかく先月24日の欧州連合(EU)からの離脱派が勝利した国民投票日以降の為替相場では、英ポンドが派手に動き、一日の変動幅が200ポイント以上になることがいまだに続いている。昨日もアジア時間の高値を起点にすれば、ニューヨークの終盤までに200ポイント近く下落している。昨日はテリーザ・メイ氏が首相に就任、組閣も発表されたことでポンド買いに動く場面もあったが、基調はポンド売りだった。今日の英イングランド銀行(中央銀行)の金融政策委員会で利下げなど緩和策を決定するとの見方が強まっていることが背景だ。それでも、さすがにポンドの動きも静かになり始めるだろうとの声も多くなっており、次のターゲットは豪ドルやユーロになるとの囁きも聞こえて来ている。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。